

生活保護者に対する
向精神薬の「多剤処方」が目立つ

順位 (補正值 ベース)	自治体名	実際に 受け割 割合 (%)	多剤処方された 生活保護者の割 合(全国平均=100 とした場合の 補正值)
1	兵庫県西宮市	4.4	184.6
2	岐阜市	3.4	172
3	大阪府高槻市	3.9	169.5
4	和歌山市	3	163.2
5	札幌市	3.7	162.7
中略			
103	長野市	1	47.4
104	沖縄県	0.8	44.2
105	神奈川県横須賀市	0.7	39
106	愛知県岡崎市	0.8	36.5
107	富山県	0.4	27.6

(注)107自治体(都道府県、政令市、中核市など)
を厚労省研究班が調査

生活保護受給者の医療が公費。過去に受給者が精神薬がインターネット
費に自己負担はなく全額病気を装って入手した向で転売される事件が発覚

厚労省調査 制度の悪用懸念

生活保護の受給者が、医師から睡眠薬など複数の向精神薬を大量に出さ
れる「多剤処方」の割合が、健康保険組合加入者の約4倍に上ることが、
厚生労働省研究班の全国調査で分かった。受給者の処方割合を自治体別に
見ると、最高は兵庫県西宮市で最低は富山県。都道府県別では関西地方が
多かった。

生活保護者の割合4倍

向精神薬の大量処方

健保加入者比

するなど、制度の悪用が
懸念されている。研究班
は「適正な処方に向けて
より詳細な分析が必要
だ」としている。

調査は、厚労省の科学
研究費補助金を受けて財
団法人「医療経済研究機
構」(東京・港)が実施。
2011年と12年の各年
の主に5月診療分のレセ
プト(診療報酬明細書)
について、生活保護受給
者に関しては延べ約2
28万件、健保組合加入
者では全国約50組合の
延べ約80万件を分析し
た。

その結果、抗不安薬、
睡眠薬などの向精神薬が
3種類以上出される多剤
処方の割合は、健保組合
加入者の0.5%に対し、
生活保護受給者は約4倍
の2.1%だった。薬物
依存になる危険性が高ま
るとして、睡眠薬などの

向精神薬を3種類以上出
した場合、医療機関に支
払われる診療報酬を減ら
す改定が今年10月から実
施されている。

また、受給者の多剤処
方の割合を地域別に分
析。都道府県と政令指定
都市、中核市など107
自治体を比べたところ、
トップは兵庫県西宮市

で、岐阜市、大阪府高槻
市と続いた。最低は富山
県。都道府県別のみだと
上位6位のうち大阪、奈
良、和歌山の関西地方が
半数を占めた。
地域差が生じた理由と
して、同機構の奥村泰之
研究員は、生活保護受給
者数が多く精神病床が少
ない自治体では、多剤処
方の割合が高くなる傾向
があると指摘。こうした
地域では重症度が高く、
入院できない外来患者が
多い可能性があるとしな
がらも、「自治体などが
定期的に割合を調査する
など詳細な分析を行い、
地域の実情に応じた対策
を取る必要がある」とし
ている。